

佛心寺 お手紙掲示板 三月



私たちは普段、目に見える世界の中で生活しています。けれども日本の暮らしには、古くから、目には見えない「あの世」とのつながりを大切にしてきた、知恵があります。

民俗学者・折口信夫が提唱した「まれびと」という考え方は、その象徴です。異界から訪れ、人に気づきや力をもたらしていく存在であり、なまはげや獅子舞に頭を噛んでもらう風習も、その一つです。

こうした営みは、単なる形式ではありません。「目に見えない存在を迎え入れることで、日々の乱れを整え、心や暮らしを清らかにしていくための儀式でした。」

「あの世」という目に見えない世界に思いを向けることは、現実から離れることではありません。むしろ、今の生活を根底で支え、生命力を与えてくれる源泉として捉えられています。

「この世」を見つめる目と「あの世」を感じる目。

その二つをあわせ持つことで、心は少しずつゆるみ、整っていきます。新しい季節のはじまりに、「あの世」に目をむけてみませんか？

「あの世」に 目を向ける